

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
東部Ⅰ地区	河辺小学校	①小学校、中学校共に、適正な規模で児童数も適正と思います。学校の場所も河辺駅に近く、人口の激減や激増は市内でも少ないのではないのでしょうか。他の地区と違い変化も少なくデメリットは感じません。 ③適正規模 ④河辺小学区域は良い ⑤全体的にバランスは取れていると思う。 ⑥学校規模の観点は、問題無いと思います。東部Ⅰ地区再編案Bよりバランスが取れると思います。校庭、体育館など共用施設は東部Ⅰ地区再編案Bよりメリットがあると思います。 ⑦現実的	②小中一貫校のメリットが分からない。体型の違う子ども達が同じ学校での学びをどうするのか課題では。体育館等のグラウンドの使用・部活においての部屋の使い方等 ③河辺小と霞台小の学級数に偏りが出るので、均等になるような学区割を考えて欲しい。 ④若草小の児童に負担がかかる、もし使うなら若草小を使用 ⑥同一地区で、小中一貫校と分離校と分かれる事が気になります。		①小学校、中学校ともに変化が最小限なため、配置も通学も問題ないと考えます。駅に近く先生も通勤しやすくコミュニティスクールとしても良い学校になると考えます。デメリットは感じません。 ③30分以内の適正配置 ④河辺小学区域は良い ⑤河辺小の児童はほぼ現状のままなので負担が無くて良い。若草小の児童は再編後も多少通学距離が長くなるものの、通学負担は少ないと思う。 ⑥東部Ⅰ地区再編案Bとは大差は殆ど無くも、東部Ⅰ地区再編案Aの方が通学負担が無いかと思いました。 ⑦現実的	②小学校低学年が長距離通学するのにかかる時間、冬暗くなって帰宅する。女子生徒への安全管理をどうするのか。 ③30分以内の適正距離といえども小学1年生には厳しいと感じる。新町3丁目を新町小学区にしたらいかがでしょうか？ ④若草小の児童に負担がかかる、もし使うなら若草小を使用。 ⑥学校の位置は、現状土地活用が基本ならば仕方ないと思いますが、片道1.7km25分は小学生1年生～3年生は少し大変かと思います。 ⑥幹線道路や青梅線を横断した通学となるので、通学経路の安全面の整備も同時に実施の検討が必要かと思います。		①受験して選んで入る定員のある一貫校と、公立の地区割りの学校は全く目指すところが違うので、小中一貫教育の内容やメリットがわかりません。小学校と中学校が共に河辺駅に近く、通勤通学に便利で、学校同士の距離も近くこのままが良いと思います。 ②同じ施設に小中がいることで、先を見通せることは良い。いろいろな準備が早くできるのも良い。(気持ち・物理的なことも) ③現状と変わらないので保護者も子どもも受け入れやすい ③校舎が別の場合、実験室や体育館なども成長に合わせて使用できる。 ④出来たら素晴らしいです ⑦現実的、混乱が少ない	①小学生が中学生から良い影響を受けるとともに、悪い影響も心配です。 ②登校を嫌がることもあると9年間同じ学校に通うことができなくなる。選択できるようになると自分で選ぶことができる。 ③同一施設ではないので小・中学生の交流もなく一体感はない ④申し訳ございません。学校関係者の答えになります。小中一貫校にするには、大規模な施設を作るところからです。 ⑤施設分離型小中一貫校だと、現状と変わらず。将来の建て替えや学校設備等の維持費が多く掛かる。児童・生徒数が減少していく事を踏まえると、あまり現実的では無いように思える。 ⑥同一地区内で『施設一体型』、『施設分離型』が分かれる事は、それぞれメリット、デメリットはあると思いますが、施設による差が生じる事は可能な限り避ける事が良いかと思います。	
	霞台小学校	③児童数・学年数に問題はないと思います。	①第4小学校については、学区の変更に伴い児童の通学路等安全面の配慮が必然だと思います。 ⑤学校の数が減る、エリアが広がる。	①今後の人口減少に伴う生徒数の減少は否めない為、学校施設を減らし再編することには賛成です。幸いに、霞台小学校と泉中学校は施設隣接型のようなので安心しています。 ④両案とも霞台小学校では1学級の児童・生徒数、1学年の学級数、学校全体の学級数等に大きな差異はないと思います。		③新町3丁目からの通学が不安 ④青梅街道に面することから、交通量の多さによる事故等の安全面が懸念されます。 ⑤エリアが広がり通学負担	①再編案については良いと思いますが、学区変更が強いられる子どもたちへの配慮が必要だと思います。 ②現在の小学校2校・中学校2校の体制は変わらないので、「特に変化がない」ことになる。それが、メリットでもあり、デメリットでもあると思います。	②小学生・中学生とも、従来通りの環境が維持できる。 ③霞台小と泉中は隣接しているため、このままで良いと思う。 ④小中一貫校であることは、子どもたちにとって多様な人間関係や環境を経験する機会につながると考えています。	②一貫教育の徹底ができない恐れがあり、目的が曖昧になる可能性が高い。 ⑤小学部、中学部の上下関係が分けられない。 ⑤学校数が減った後の土地の防災拠点がなくなる	①施設隣接型・施設分離型は、賛成です。
	若草小学校	④学校規模適正化基本方針の望ましい学校規模内であり、一定の集団規模が確保されている。 ⑥生徒数が減ってきている事は確かなので、学校統合することはメリットはあると思います。	④特別支援学級、教員の配置など、規模に対して適正な配置数が確保できるか検討が必要。 ⑤たくさんの学校の建替えは費用がかさんでしまう	③数は適正化されるので問題ないと思うが、東部Ⅰ地区再編案Bと比較して中途半端な印象。	④霞台小は泉中と隣接しているため、小中一貫教育の推進方針に基づいた位置である。	④河辺町8丁目から通学の場合、青梅街道を通学路として通る必要があり、現状以上に低学年など交通安全の見守りが必要である。 ④新町3丁目からの距離が遠く、通学手段を検討する必要がある。 ⑤霞台中学校は学区の端となり、河辺東側の生徒の通学負担が増してしまう。 ⑥小学生低学年の生徒は長距離を重たいランドセルを背負って登校するのは大変だと思います。	③学級が楽しい場所となればそこまで問題ではなくなると思う	④学校規模を維持しながら従来と変わらず教育が受けられる ④小中一貫と比較して人間関係のこじれによる長期的影響を受けにくい ⑤校庭などに余裕が出来て自由度が増す。新しい気持ちで中学校への通学が始まる。より一層地域のことを知るようになる。	③2つの地区で差があるのは問題が出てくるのではと心配 ④施設が分離されていることにより設備の重複、維持費増大による非効率 ④施設隣接型の学校運営の在り方について整理されていない	⑥(小中一貫校)と(霞台中と河辺小を別)の2パターンにすることは現状の施設の問題もあるので仕方がないと思う。
霞台中学校	③各校ほぼ均等になっており、問題ないと思います。 ④今のところA案もB案も適正な児童・生徒数を確保でき、勉強する環境も整うと思う。デメリットは感じない。 ⑥1学級の生徒数が少ないのは、一人一人に目が届くので良い面があると思う。一時的に学校全体で7学級まで減ってしまうものの、生徒数、学級数は現状程度の規模をギリギリ維持出			②小学校からの進学先の統一は良い ③東部Ⅰ地区は配置に恵まれており、デメリットは十分許容範囲と思います。 ④生徒数の安定、確保が可能な事。 ⑥新入生のうち、河辺小からの児童が約8割なので、通学負担は現状と変わらず。 若草小からの児童も通学負担の面では変わらないと思います。	①通学負担増、新町3丁目から霞台小学校への通学時間は25分となっているが、実際の通学経路(2km超と推測)と小学1年生の歩速(時速4km)を考えると過小評価ではないか。 ②一部の小学生(1・2年生)の通学が長距離となり大変である(交通事故等)。小・中一貫校1校は規模が大きく生徒に目が届きづらい。 ③霞台中学校の位置が地区の西側に偏っているため、東部Ⅰ地区再編案Bに対しては不利になると思います。(ただし、許容範		②施設分離型は小学生・中学生がそれぞれ集中できる ③小学校の児童がそのまま中学校の生徒になるので、いいのではないかと思います。デメリットは十分許容範囲と思います。 ④中学生は部活などでの体育館やグラウンドが使用しやすいと思う。 ⑤霞台中学校区では、今ある敷地がそのまま使用できる点 ⑥施設分離型は現状と大きく変	①施設分離型では小中一貫の効果が薄れる ②小中一貫校で1校だと、いじめ等があった場合転校先があっという間。 ③小中一貫校①について、小中で施設が分離されているので、一貫と言うのには違和感があります。 ⑤霞台中学校区では、各校が離れている為情報共有にラグがある。		

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
		来るのであれば良いと思う。				<p>④徒歩30分が子供にとって大変になる。自転車や公共交通手段も学校外の事なので、スクールバスの検討も必要となる。</p>		<p>わらないと思うので、学校の施設やルールなどを変えなくてすむのではないかな。</p>	<p>⑤泉中学校区では、隣接する学校なので分離し運用する理由がない。改築し一体型にしたほうが運用しやすい。</p> <p>⑥別々に校舎を建て替える必要があるのでは、費用が高みます。</p>	
泉中学校		<p>③一定の集団規模が確保されるのは良い</p> <p>④児童数・学年数に問題はないと思います。</p> <p>⑤小・中再編する事により、人数確保が出来る事。それにより多様な生徒増となる。</p> <p>⑥1学級の児童・生徒数は国の基準で決められており、意見の余地はないものと思っています。そこから計算された1学年、学校全体の学級数は、現在と同等もしくは若干大きくなる程度のため、抵抗感もなく、適正であると思います。</p> <p>⑦児童・生徒数の規模の観点から見ると評価できる案である。</p>	<p>⑤1クラス30名を目指す事が出来るのか。</p>	<p>②東部1地区再編案A・Bともに同じ状況である。</p>	<p>③小学校からの進学先が統一されるのは良い。</p> <p>⑤位置的には今の学校の場所を使用できる。</p> <p>⑥若草小を残す提案があれば、また違いますが、案A・Bともに学校の位置は大きく変わらず、いずれも現行の学区や校舎を活かす考えのもとで、妥当であると思います。</p> <p>⑦児童・生徒の通学に関して負担が少ないという面は評価できる。</p>	<p>③霞台小・泉中（隣接型）は行き来し易いが、河辺小・霞台中（分離型）は線路を挟んでの移動となる。</p> <p>④新町3丁目からの通学が不安</p> <p>⑤新町3丁目から徒歩で約25分、低学年（新1年生）には厳しいのでは。安全面でもしっかりと考えてほしい。</p> <p>⑥子ども達の通学負担についてです。一番遠い新町3丁目付近からも霞台小へは歩けない距離ではないとは思いますが、やはり通学中の安全が心配です。子どもが少なく、地域とのつながりも少ないご家庭が多いと思いますので、集団登校なども難しいのかと思います。他地域に比べ、通学距離は近いものとは思いますが、それでも6歳児が（低学年のうちは月齢で大きな差がありますので、6歳になったばかりの子を考えていただきたいです。）徒歩でとなれば、保護者の不安は大きいと思います。共働き、核家族など、言われて久しいですが、付き添い登校などは多くの家庭が困難です。子どもの安全が家庭環境に左右されないように、また家庭への負担を軽減するために、スクールバス等の検討は当地区においてもしていただきたいと思っています。</p> <p>⑦若草小学区から霞台小学区に組み込まれた児童・生徒の保護者には不満が残る。</p>	<p>②東部1地区再編案A・Bともに同じ状況であるが、ともに新町3丁目地区の小学生を新町小へ学区を変更することが望ましい。（四小から霞台中への変更と同じ考え方）</p> <p>⑥現在は東部1地区のみでの検討ですが、例えば若干、学区変更をして、最も遠くなる地域のみ東部2へなど、再編案に合わせて、学区の調整もしていただけると、通学負担も軽減されますし、より保護者にご理解をいただける提案になるのではと思います。</p>	<p>③（隣接型・分離型）現在ある敷地をそのまま使用できる。</p> <p>④霞台小と泉中は隣接しているので、このままで良いと思う。</p>	<p>⑥霞台小、泉中は隣接型の『施設一体型』と定義されていますが、子どもを通わせた立場からすると、中学校は隣にあっても遠い存在でした。全くわからないと言っても過言ではないと思います。また、河辺小、霞台中は完全に離れています。現在でも小中相互に交流を図ろうとする動きは見られますが、小学校・中学校ともにカリキュラムも先生方も自校の対応で手一杯な印象です。小中一貫教育というからは、合同での行事、特色ある授業の実施、先生方が連携することにより進学への不安が軽減されるなどを期待してしまいますが、再編案Aは子どもの顔ぶれが同じだけで、何も変わらないのではと疑問です。</p> <p>⑦施設分離型であれ、施設隣接型であれ、地域によっては再編前の学校のイメージが残ってしまうのではないだろうか。</p>	<p>②霞台小・泉中は隣接型でいけるが、霞台中学区では離れすぎているので、河辺小の建て替え時に一体型に統合させるとよい。</p>